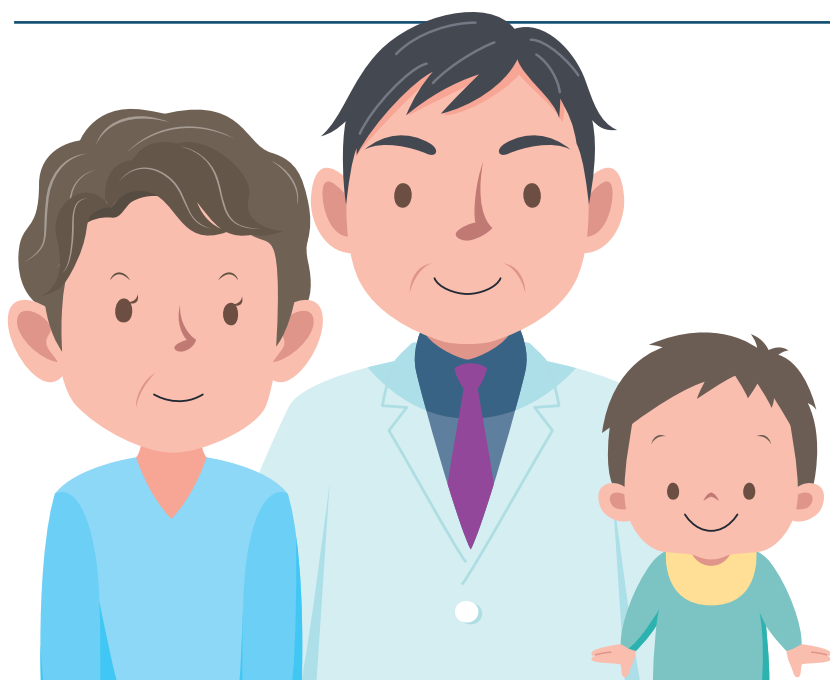


プレバイミス®錠240mg、 プレバイミス®顆粒分包20mg・120mgを 服用される方へ

＜同種造血幹細胞移植を受けた患者さん向け＞



Q

プレバイミス®錠・顆粒分包は どのようなお薬ですか？

A

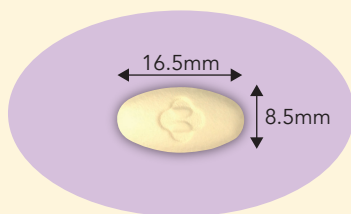
プレバイミス®錠・顆粒分包は、同種造血幹細胞移植を受けた患者さんが移植後合併症の1つであるサイトメガロウイルス（CMV）感染症の発症を抑制するために、CMVが活発化（再活性化）するのを予防するお薬です。

プレバイミス®錠・顆粒分包の服用方法

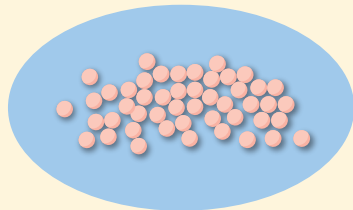
**飲む量や飲み始めるタイミングは、
あなたの状態などにあわせて医師が決めます。**

移植当日～移植後28日以内を目安に飲み始め、
飲み続ける期間については主治医の指示を守ってください。

1日1回決められた量を飲んでください



コップ1杯程度の水または
ぬるま湯で飲んでください。



コップ1杯程度の水または
ぬるま湯で飲んでください。



顆粒はヨーグルト、プリン、ゼリー、アイスなどのやわらかい食べ物に混ぜて服用することが望ましいです。
患者さんの状態に応じて、栄養チューブを通して投与することも可能です。

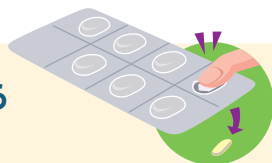
※顆粒分包の詳細な飲み方については、別冊の「プレバイミス®顆粒分包を服用される方とご家族へ」をご参照ください。

Q

プレバイミス®錠・顆粒分包を飲む際の注意事項は何ですか？

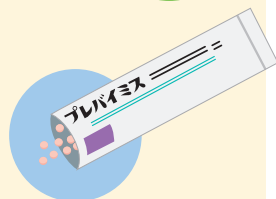
A プレバイミス®錠・顆粒分包を飲むときは、次のようなことにご注意ください。

- お薬は必ず、PTPシートまたは分包から取り出して飲んでください。



- 自己判断で使用を中止したり、飲む量を変更したりしないでください。

飲む量を変えると、お薬の効果が得られないおそれがあります。主治医の指示どおりに飲み続けることが重要です。



- 飲み忘れても、決して2回分を一度に飲まないでください。

飲み忘れに気がついた時に、すぐに1回分を飲んでください。ただし、次のお薬を飲む時間が近い場合は、1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。



- 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。

- 主な副作用として、吐き気、下痢、嘔吐などが報告されています。これらの症状や気になる症状が出た場合は、すぐに担当の医師または薬剤師に相談してください。

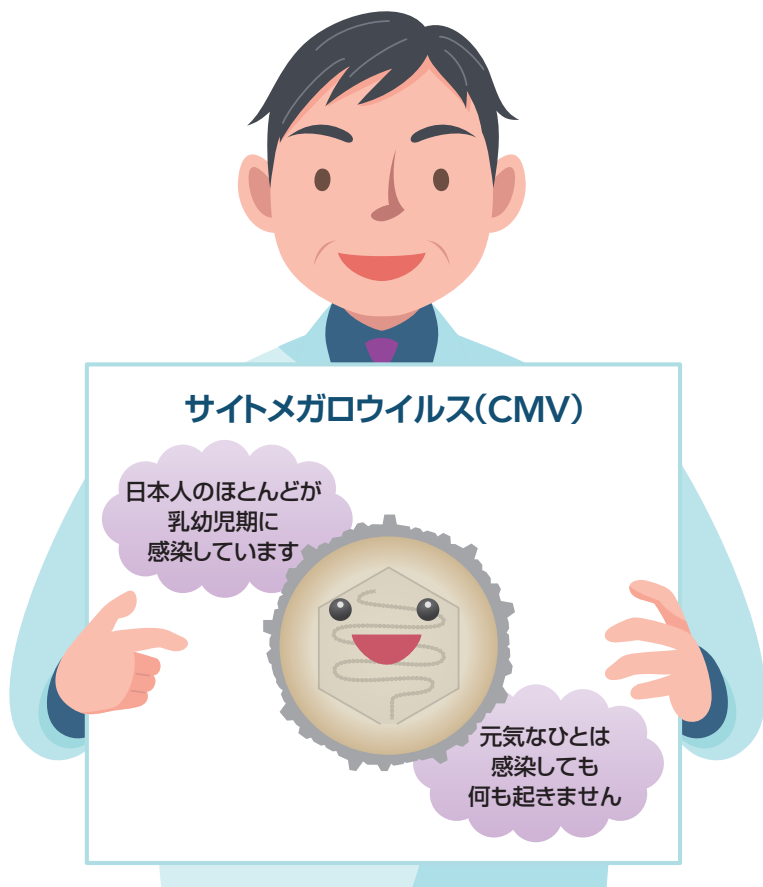
Q

サイトメガロウイルス(CMV)って どんなウイルスですか？

A

サイトメガロウイルス(CMV)はヘルペスウイルスの一種です。どこにでもいるウイルスで、日本人の60～90%¹⁾がいつのまにか感染しています(初感染)。感染しても、健康な状態では症状が出ないのが特徴です。

1) 日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植ガイドライン-ウイルス感染症の予防と治療
サイトメガロウイルス感染症(第5版補訂版), 2024



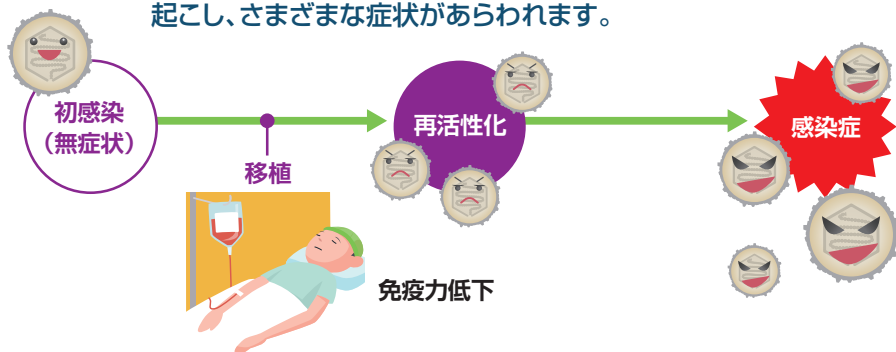
Q

CMVに感染すると どんな影響がありますか？

A

CMVに一度感染すると、生涯体内からなくなることはありませんが、健康な状態では症状が出ないことがほとんどです。ただし、移植などで体の免疫力が低下すると、体内に潜んでいたCMVが再び活動を始めます(再活性化)。

再活性化した状態を何も治療せず放っておくと、感染症を引き起こし、さまざまな症状があらわれます。



CMV感染症の症状

CMVはさまざまな臓器にあらわれるため、CMV感染症の症状は多彩です。発症時期は、移植後3～12週が多いといわれています。

主な症状

全身症状	発熱(38℃以上)・体がだるい・やる気がでない・ 関節痛・筋肉痛
肺	呼吸がしづらい
消化器	吐き気・腹痛・嘔吐・下痢・血便を含む肛門からの出血
眼	視力低下



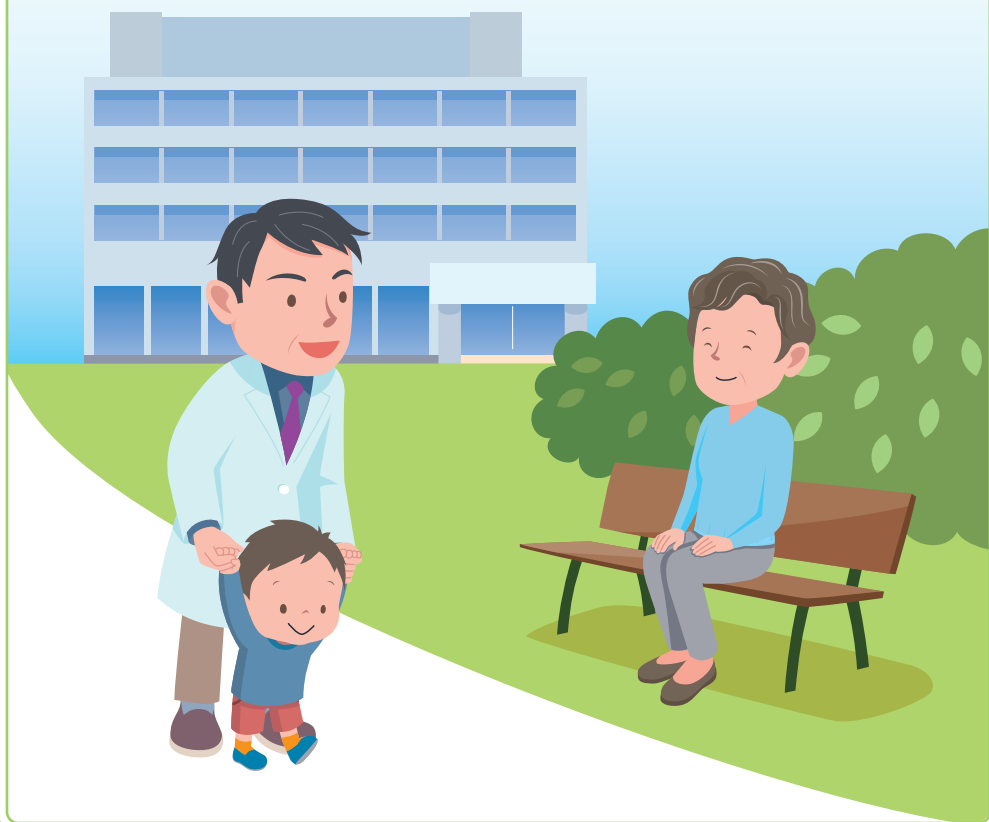
Q

CMV再活性化を 予防する意義は何ですか？

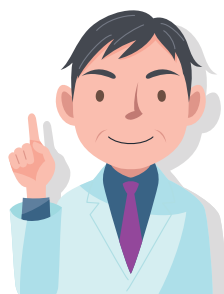
A

同種造血幹細胞移植後にCMVが再活性化すると、移植後の健康状態に悪影響を与えることがわかってきました。

移植後の負担を減らすためにも、CMVの再活性化を予防することが重要です。



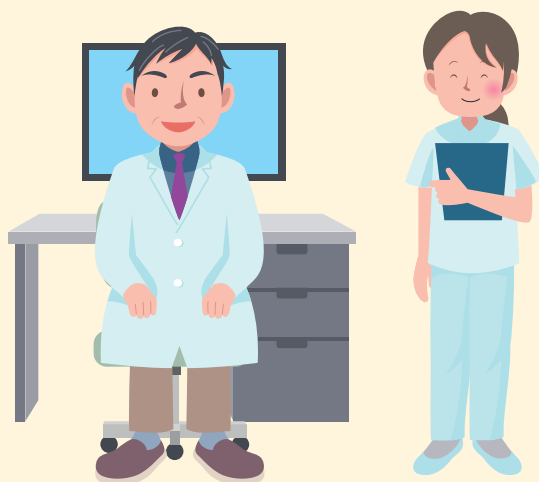
CMV再活性化を しっかり予防するためには お薬をきちんと飲み続ける ことが重要です



プレバイミス®錠・顆粒分包は、CMVの再活性化を予防することでCMV感染症の発症を抑制します。予防薬全般にいえることですが、症状を出さないことが役割なので、お薬を飲むことで状態がよくなったり、何かの症状が治まるといったことがないため、お薬の効果がわかりにくいかもしれません。

だからといって、ご自身の判断でお薬を飲むことを中断したり、飲む量を調節してしまうと、予防効果がきちんとあらわれなくなってしまいます。

医師や薬剤師の指示をしっかりと守り、きちんと飲み続けてください。



**何か気になることがある場合は、
すぐに医師や薬剤師などの医療従事者に相談してください。**

次のような方は、飲み始める前に
医師・薬剤師にご相談ください



重度の肝機能障害がある



何らかのお薬を飲んで、かゆみ、発疹などの
アレルギー症状が出たことがある



妊娠している、または
妊娠している可能性がある



授乳中



いつも飲んでいるお薬がある
(飲み合わせの問題が生じることがある)

医療機関名